

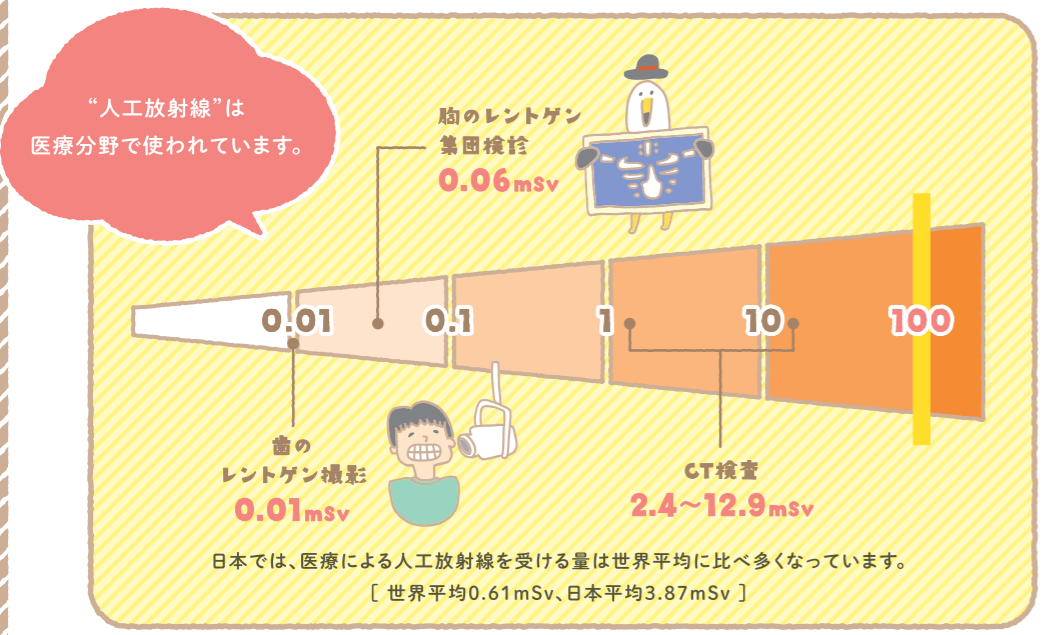


ミラエネでは、放射線についてさまざまな内容を取りあげ、その際、みなさんから暮らしに身近な「食べ物」と「医療」に関するご質問を多くいただきました。今回、あらためて静岡大学名誉教授の奥野先生にお答えいただきます。過去のミラエネでは、放射線の単位や特徴について詳しく解説していますので、ぜひ左上のQRコードからバックナンバーもあわせてご覧ください。

# 放射線のあるなこと、こんなこと みなさんの気になる?に答えます!

奥野先生、  
お願いします!

## Q レントゲンで放射線を受けても本当に大丈夫?



上イラスト出典：日本原子力文化財団「原子力総合パンフレット2019年度版」より作成

## Q 食べ物にも放射線が含まれているってホント?



かもしろうの発見!  
放射線のことを知って、正しく使うことが大事なカモ!

## A

レントゲン検査などで一度に100mSvより低い放射線の量を受けた時の、からだへの影響は確認されたことはありません。

レントゲンは、必要な場所に必要最小限の放射線が当てられています。放射線は、長い時間をかけて受けるか、一度に受けるかで、同じ量でもその影響は異なります。

例えば私たちは50年間で、自然放射線を計100mSv受けるのですが、この場合の影響は確認されていません。一方で、一度に同じ量を受けた場合は、がんになるリスクは約0.5%増えると言われています。ただ、これは野菜不足や塩分の摂りすぎなどの生活習慣によってがんになるリスクと同じくらいの値です。

## A

すべての食べ物には、放射線を出す物質(放射性物質)が含まれています。

干しいたけやお米など、食べ物の中にはカリウム40などの放射性物質が含まれています。なお、カリウムは人間のからだに欠かせない栄養素であり、体重の約0.2%含まれています。

呼吸や食べ物などで取り込んだ自然界の放射性物質は、からだの中で蓄積されていくのではなく、自然に代謝されてほぼ一定の量に保たれています。